

熱き男たちの
燃えさかる魂



【写真】あばれ祭二日目のクライマックス。八坂神社境内で最後の大暴れをする白山神社方のあばれ神輿（7月3日午前2時ごろ）

8

平成22年



広報のと
第66号

平成22年8月1日発行

発行：能登町 ■編集：広報情報推進課
〒927-0492
石川県鳳珠郡能登町字出津新1字1-97番地1

☎：0768-62-10000
能登町URL：http://www.town.noto.lg.jp
Eメール：info@town.noto.lg.jp

イギリス
英国日和
能登日和

能登町を古里として
英国で活躍する抒情書家

室谷文音がつづる
フォトエッセイ。



初めて浴衣を着て、大喜びのマリナとご主人のパスカル。「2010年・世界中の人を能登へ呼ぼう！」私たちの夢に合わせて、ハネムーンも兼ねて日本へ来てくれました。



能登ではどんな急な山の斜面にでも田舎があるように、フランスの田舎では、丘の上までワインのためのぶどう畑でいっぱいです。

「絆 ぎずな」

宇出津の「あばれ祭」に合わせて、フランスから私の親友、マリナが初めて日本へ来てくれました。イギリスの高校で出会った彼女は、モルドヴァ（ルーマニアの隣国）出身で、奨学金を受けてイギリスに留学。15歳で5カ国語をペラペラ話しました。ところが、頭のいい彼女でも大学進学となると学費が払えず、夢をあきらめて国に帰らなければならぬところまで来ていました。ルームメイトだった私は、落ち込む彼女を見て「日本人である」ということがいかに恵まれているか、痛感しました。

「娘が二人いると思ってマリナの学費も出そうー」マリナに会ったこともない父と母。私の言葉をただ信じてくれました。

決してお金持ちでない私たちが助けたため、大学4年生の時の学費が出せなくなりました。

すると「地球の反対側から応援してくれる人がいる。そはの私たちも力にならなければ」と大学の教授が残りの学費や住まいの世話もしてくれたのです。

卒業後、マリナはパリの銀行に就職。22歳の若さで、弟の学費と両親への仕送りを始めました。

「アヤネの両親が最初の重い一歩を踏み出してくれたから、それに感動して、みんな『自分に来る範囲』で助けてくれたの。私も感謝の心を次につなげていきたい」

能登を去る時、彼女はそう言ってくれました。



室谷文音（むろや・あやね）

昭和55年大阪府生まれ。13歳で渡英し、名門セントラル・セント・マーティン美術大学を卒業。平成18年に両親と共に京都府美山町から移住。内浦長尾にアトリエ「桃花林」を構える。現在は次の展覧会に向けて作品を制作中。

『風といつしょ』

